

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	姫路獨協大学
設置者名	学校法人 獨協学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
人間社会学群	国際言語文化学類	夜・通信		14		14	13	
	現代法律学類	夜・通信			2	16	13	
	産業経営学類	夜・通信				14	13	
医療保健学部	理学療法学科	夜・通信			18	18	13	
	作業療法学科	夜・通信			21	21	13	
	言語聴覚学科	夜・通信			14	14	13	
	こども保健学科	夜・通信			18	18	13	
	臨床工学学科	夜・通信			18	18	13	
薬学部	医療薬学科	夜・通信			22	22	19	
看護学部	看護学科	夜・通信			28	28	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>本学公式ホームページに掲載 TOP > 大学案内 > 教育情報 学群・学部 > 授業科目、年間の授業計画等 > (3)実務経験のある教員による授業科目 https://www.himeji-du.ac.jp/univ/pdf/2019/subjects.pdf</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のあ る教員等によ る授業科目の 単位数又は授 業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配 置 困 難
		夜・ 通信			
		夜・ 通信			
		夜・ 通信			
		夜・ 通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	姫路獨協大学
設置者名	学校法人 獨協学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人獨協学園ホームページ
 TOP > 獨協学園について > 獨協学園の役員
<http://dac.ac.jp/pdf/yakuinmeibo-20190601.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	副市長	H27. 8. 2～ R01. 8. 1	組織運営体制へのチ ェック機能等
〃	医療法人財団理事長	H30. 4. 1～ R01. 8. 1	〃
〃	ジャーナリスト	H27. 8. 2～ R01. 8. 1	〃
〃	株式会社専務執行役員	H30.10. 1～ R01. 8. 1	〃
〃	独立行政法人顧問	H27. 8. 2～ R01. 8. 1	〃
〃	経営者協会会長	H28. 8. 1～ R01. 8. 1	〃
〃	弁護士	H27. 8. 2～ R01. 8. 1	〃
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	姫路獨協大学
設置者名	学校法人 獨協学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各授業担当教員が授業科目の授業内容(到達目標を含む)、授業計画、教科書、参考文献、評価方法・基準、授業外における学習方法及び履修にあたっての注意事項等の詳細情報を記載方法のルールにしたがって入力しシラバスを作成している。その中で、実務経験のある教員による授業科目が学生に明確にわかるようにするため教務課で【実務経験のある教員による授業科目】の記載を基本情報に加えている。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>本学公式ホームページでシラバスを公表 TOP > シラバス https://www.himeji-du.ac.jp/univ/syllabus/2019.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業時間内における発表や小テスト、学期末に実施する定期試験(授業時間の3分の2以上の出席者に受験が認められる)やレポート等、シラバスに記載した評価方法・基準により、各学生の学修成果を厳格かつ適正に100点満点で評価(優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59~0点))し、60点以上の評価を得た者に対し、単位を授与、各学期末に単位修得状況を成績通知書として通知している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 履修科目の成績評価を100点満点で点数化、学生毎に単位修得(合格)した60点以上の科目(資格取得などによる認定科目は除く)の平均点を算出し、成績の分布状況を把握している。また、学生には毎年5月下旬頃に、前年度までの単位修得科目による現学年での成績順位を希望者に発表(何名中何位)している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学生ホール掲示板において、『学部(群)・学科(類)別成績順位の照会について』を掲示し、全学生に対し周知している。また一般に対しては、教務課担当者(担当窓口)への照会対応により公表。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 大学ホームページや「履修の手引」に公表しているディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに則り、卒業年次までの単位修得状況を最終学年の年度末(さらに卒業延期生については、前学期末)に卒業判定資料として作成、教授会において卒業判定を行い、卒業要件を満たしたと判定された者に卒業を認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>大学公式ホームページにディプロマ・ポリシーを公表。 TOP > 大学案内 > 教育情報 学群・学部 > 大学の教育研究上の目的と3つのポリシー > (4)ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針) https://www.himeji-du.ac.jp/univ/curriculum.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	姫路獨協大学
設置者名	学校法人 獨協学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://dac.ac.jp/finance/
収支計算書又は損益計算書	http://dac.ac.jp/finance/
財産目録	http://dac.ac.jp/finance/
事業報告書	http://dac.ac.jp/finance/
監事による監査報告(書)	http://dac.ac.jp/finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学公式ホームページに掲載 TOP>大学案内>自己点検・評価等>自己点検・評価報告書>自己点検・評価報告書(2016年4月~2019年3月までの状況) URL: https://www.himeji-du.ac.jp/univ/hyouka.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学公式ホームページ TOP>大学案内>自己点検・評価等>認証評価(第三者評価) https://www.himeji-du.ac.jp/univ/hyouka.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間社会学群
教育研究上の目的 (公表方法: 本学公式ホームページ) TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と 3 つのポリシー> (1) 各学部の目的>人間社会学群 https://www.himeji-du.ac.jp/univ/gakubu-mokuteki.htm
(概要) 現代は、高度情報化、グローバル化、少子高齢化あるいは多文化共生で表現される複雑な社会であり、その中で多様な価値観を持った人々が共存して生きる時代である。このような時代にあっては、人と社会に関する幅広い知識を有し、専門分野も究めた自在性のある人材が求められる。人間社会学群においては人文・社会・自然科学及び医療福祉に関する幅広い教養を身に付けるとともに、それぞれが、国際言語文化、現代法律学、産業経営に係る専門分野を深く修めることによって、現代の人間社会における諸課題に正しく対処できる人材を育成することをその目的とする。 国際言語文化学類 は、自らの言語・文化のみならず、さまざまな他の言語・文化の学修・修得を通じて、コミュニケーション能力に優れ、多くの人々と互いに分け隔てなくしなやかに共生し、国際社会への洞察力と地域社会への愛着を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。 現代法律学類 は、幅広い教養と法律学および政治学に関する専門知識を授け、的確で柔軟な法的判断能力及び実践的な問題解決能力を備えた、現在および将来にわたり社会に貢献することのできる人材を養成することを目的とする。 産業経営学類 は、一般社会やビジネス界で必要となる、経済・経営、会計・情報に関する教養と専門知識を授け、問題解決能力を有し、高い倫理性と責任感をもって判断し、行動できる人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 本学公式ホームページ 履修の手引き) TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と 3 つのポリシー> (4) ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) >人間社会学群>ディプロマ・ポリシー https://www.himeji-du.ac.jp/univ/curriculum.html
(概要) 国際言語文化学類 1.国際言語コースは、英語を中心にドイツ語、スペイン語、中国語、韓国語など複数の言語・文化・歴史・社会を有機的に学び、多様な価値観を持つ人々との共生が実現可能な国際的視野に立つ教養人になること。 2.医療外国語コースは、外国語運用能力及び外国文化の知識を身につけることに加え、さらに医療分野の知識を統合し、実践の場で活用する能力を身に付けた国際的視野に立つ教養人になること。 3.日本語教育・日本文化コースは、外国語運用能力、日本語・日本文化についての深い知識及び日本語による優れたコミュニケーション能力を修得し、グローバル化する現代の社会で国際的視野に立つ教養人になること。 現代法律学類 1.多様化・加速化する現代社会に関心を抱き、必要とされる教養の知識並びに法学及び政

治学の専門的知識を修得すること。

2. 知識に裏付けられた法的判断能力及び実際的な問題解決能力である「リーガルマインド」を身につけていること。
3. 「リーガルマインド」をもって、現在及び将来起こり得る社会問題を整理し理論的に考え、自ら行動を起こし、他人と協働して合理的に解決する力(「考・動・力」)を身につけていること。

産業経営学類

1. 学問領域に対する専門的な知識及び技能を有すること。
2. 自らが抱いた疑問点に対して、修得した様々な技能を駆使し積極的にその解をもとめようとする問題解決能力を身につけていること。
3. コミュニケーション能力と自ら考え行動できる人間力を身につけていること。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:本学公式ホームページ 履修の手引き)

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(3)カリキュラム・ポリシー(教育課程の内容・方法の方針)>人間社会学群>カリキュラム・ポリシー

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/curriculum.html>

(概要)

人文・社会・自然科学に関する幅広い教養を身につけるとともに、それぞれが国際言語文化、現代法律、産業経営に関する専門分野を深く修めることによって、人間社会の諸問題に柔軟に対処できる人材を育成する。

全学共通科目並びに人間社会学群の学群共通科目・学類専門基礎科目・学類技能科目を主に1年次と2年次に修得させる。この間に、幅広い専門分野から学生の専攻する学類を選択する上で必要な情報を提供するとともに、専門科目への導入となる科目を1年次と2年次に配置している。そして、1年次終了時に、国際言語文化学類、現代法律学類、産業経営学類への所属を決めさせる。

国際言語文化学類は、

2年次

外国語力・日本語力を総合的に向上させるとともに、その言語を使用する人々の文化や社会などについての基礎となる知識を幅広く学び、教養人としての感性を高める。

3年次

外国語・日本語による表現力や思考力を磨くとともに、多様で幅広い専門分野での学びを通して、知識を有機的に統合し、国際的視野に立つ教養人としての感性を高める。

4年次

4年間を通して修得した幅広い教養と専門的知識によって、自らが設定した課題について考察し、自らの言語・文化のみならず、他の言語・文化を総合的に理解し、コミュニケーション能力に優れ、国際社会と地域社会のいずれにも深い関心と洞察力を持った高度で実践的な外国語力・日本語力を有した人材を養成する。

現代法律学類は、

1. 学類専門基礎科目の法学および政治学の入門科目では、全学共通科目と専門科目を架橋し、年次に合わせて体系的かつ段階的に専門科目を学修するために必要となる基礎知識を授けている。
2. 学類専門科目は、各コースの学修において中核となる基本六法を配置し、法学および政治学の専門的知識を修得させ、その知識を用いた思考力を養成する。
3. 将来を見据えた各コースの指定科目は、現在または将来の諸課題に対処できるよう、基本

六法をさらに発展・展開させた複合法領域および関連する学際的な学問領域の知識を修得させ、その知識を用いた思考力を養成する。

4. 各コースで修得した知識および思考力に裏付けられた問題解決能力である「リーガルマインド」を涵養し、また学生のコミュニケーション能力の強化を図るよう基礎演習を提供する。更に演習は、選択したコースと卒業後の進路を意識し、学生が将来の目標を設定し専門的知識を活かして自己実現を図ろうとする学習意欲に応える。

産業経営学類は、

2年次

対象となる学問全体についての全体像を持たせると共に、全コースにおいて必要となる基礎的な知識を修得させる。

3年次

各コースについてより深く学ばせ、座学に加え各技能修得のための演習を通して、使える知識の定着を図る。資格取得に寄与する科目・講座の履修を支援する。

4年次

既存の知識を修得させると共に、現状の問題点がどこに在るのかを十分に認識させ、自らが選んだテーマについて考察を行わせ、卒業論文という形に結実させる。また、目標とした資格と関わりのある職業・仕事への理解を深耕させ、更なる挑戦(挑戦の継続)を促進する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:本学公式ホームページ、入試ガイド)

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(2)アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)>人間社会学群

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/admission.html>

(概要)

●大学の方針

「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念にもとづき、姫路獨協大学では、それぞれの学生が、この多様化し流動化する社会を生きていく上で必修の教養と専門的知識や技能を身に付け、さらには自己表現能力と自己責任能力を培い、将来、特に姫路を中心とする播磨地域から広く国際社会へと貢献できる人材となることをその教育目標としています。したがって、次のような学生の入学を求めています。

1. 現状に満足することなく、常に向上心・探求心を持ち続ける人
2. 将来の目標を見極め、意欲的に生きる人
3. 勉学を怠らず、熱心にスポーツや文化などの課外活動を継続する人
4. 地元播磨地域から未来に貢献しようとする人
5. 国際交流に役立とうとする人

●人間社会学群の方針

多様化し境界横断化する現代社会を見据え、本学の人間社会学群は、人文・社会・自然科学に関する幅広い教養を身に付けるとともに、それぞれが外国語、法律、経済情報に関係する専門分野を深く修めることによって、人間社会の諸問題に正対できる人材を育成する。このような基本方針のもと、人間社会学群に属する3つの学類(2年次より)はそれぞれ次のような人を求めている。

○国際言語文化学類

1. 実践的な外国語力および日本語力を高め、その運用能力を活かして国内外で活躍したい人
2. 様々な文化・社会・歴史について学び、グローバルな視点を持って多文化共生社会に貢献したい人
3. 将来役に立つ語学分野の資格の取得や得点の向上を目指す人

○現代法律学類

1. リーガルマインド〔法的思考力〕を身に付け、広く社会で活躍したい人
2. 警察官・消防官・自衛官など、公共の安全や社会の秩序を維持する仕事に就きたい人
3. 司法書士・行政書士など法律に関連した資格の取得を目指す人

○産業経営学類

1. 経済学・経営学や情報技術〔IT〕に関心を持ち、将来の職業に活かしたい人
2. 簿記や会計学に興味を持ち、関連する資格の取得を目指す人
3. 健康科学に関心を持ち、将来スポーツ産業や医療産業分野で活躍したい人

学部等名 医療保健学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学公式ホームページ） TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー> (1)各学部の目的>医療保健学部 各学科の目的 https://www.himeji-du.ac.jp/univ/gakubu-mokuteki.html</p>
<p>(概要)</p> <p>理学療法学科:資質の高い技術及び応用能力を備え、医師を始めとした関連医療職と連携・協力して医療ができる、要介護高齢者及び障害者の理学療法並びに健常者に対する疾病予防処置などにも対応できる、人間性豊かな患者から信頼される理学療法士を育成することを目的とする。</p> <p>作業療法学科:医学的知識のみならず、人間と生活環境について総合的な視点から分析できる幅広い知識及び高度な臨床実践力を備え、臨床現場において患者のニーズを的確に捉え、しなやかで創造的な支援を行うことができる実践的な作業療法士を育成することを目的とする。</p> <p>言語聴覚療法学科:言語治療学の専門的知識と技術を修得し、様々な障害に対して最善のアプローチ方法を探求、実践し、科学的根拠のもとに検証する質の高い臨床活動を行える能力、患者の社会的背景を考慮しながらその機能向上と実用的能力の確立を目指し、さらに自立と社会参加を支援することのできる能力を身につけた、社会の要請に応える言語聴覚士を育成することを目的とする。</p> <p>こども保健学科:健康や保健にかかわる医療教育を基礎とし、「看護・臨床」、「養護・保育」、「教育・心理」を始め、医療・保健の専門的知識と技術を修得し、こどもの健全な育ちを願い、適切かつ必要な総合的・専門的な発達支援を可能にする職能を備え、乳幼児から就学前までの幼児を一貫した保育理念に基づき、こどもの発達を支援する専門職者を育成することを目的とする。</p> <p>臨床工学科:医学及び工学の幅広い専門的知識並びに最先端の診断・治療技術を修得し、医療従事者としての自覚及び倫理観をもち、患者との間に良好な信頼関係が樹立できる能力を身につけた、より質の高い医療を提供できる臨床工学技士を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法:本学公式ホームページ 履修の手引き) TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(4)ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)>医療保健学部>ディプロマ・ポリシー https://www.himeji-du.ac.jp/univ/curriculum.html</p>
<p>(概要)</p> <p>理学療法学科:専門知識・技術を修得するとともに、多様な保健、医療、福祉の問題を統合的に把握し、問題解決ができる能力を持ち、さらにチーム医療を支える豊かな人間性を身につけること。</p> <p>作業療法学科:時代のニーズに対応できる高度な専門技術・理論を習得し、臨床現場において、患者のニーズを的確に捉え、しなやかで創造的な支援を行うことができる能力を身につけること。</p> <p>言語聴覚療法学科:言語聴覚療法学の専門的知識と技術を習得し、患者の社会的背景を</p>

考慮しながら機能向上と実用的能力の確立を目指し、自立と社会参加を支援することのできる能力を身につけること。

こども保健学科: 高い人権意識を持ち、こどもの健全な育ちについて適切に総合的、専門的発達支援ができる職能を備え、社会に貢献していく能力を身につけること。

臨床工学科: 高度医療を実践するために必要な医療機器取扱いに関する専門家としての知識や技術を習得するとともに、チームワーク医療に関する基本的な倫理観や心構えを身につけ、患者様ともしっかりとコミュニケーションが図れるようになること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法: 本学公式ホームページ 履修の手引き)

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(3)カリキュラム・ポリシー(教育課程の内容・方法の方針)>医療保健学部>カリキュラム・ポリシー

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/curriculum.html>

(概要)

理学療法学科:

1年次

身体の構造や機能を知ると共に、リハビリテーション学や理学療法学の基礎を習得する。

2年次

疾患や障がいメカニズム、および理学療法の理論を習得する。施設見学、演習を通して理学療法士としての心構え、社会人としてのマナーを向上させる。

3年次

疾患や障害に対する理学療法を、実践を通じて身につける。臨床評価実習を通じて、実際のプロセスを経験する。

4年次

総合臨床実習で対象者への治療を実施し、学内で学んだ知識や技術の習熟を図る。卒業研究、国家試験対策等を通じて学びの総仕上げを行う。

作業療法学科:

1年次

人体の構造や機能、作業療法の基礎を学習し、地域現場体験実習、地域連携・貢献活動を通じて視野を広げる。

2年次

作業療法を施すために必要な医学的知識を習得し、実習・実践に向けて、臨床関連の専門知識を習得する。

3年次

さまざまな実習や演習を通じて、専門的な知識と技術を習得し、対象者と直接関わる臨床評価実習も経験します。

4年次

これまでに培った知識と技術を、臨床総合実習の現場で発揮し、国家試験合格をめざし、総合演習に取り組む。

言語聴覚療法学科:

1年次

一般教養科目において大学での学びの基礎を知ると共に、基礎医学、医学概論などの言語聴覚療法を学ぶ上での基礎知識を習得する。

2 年次

臨床医学や心理学などの専門基礎科目を学習し、検査の演習を行い、医療人としてのマナーと技術を習得する。

3 年次

言語聴覚療法学の各専門領域に対応した専門科目を学んだ上で、病院、施設実習において、対象者と対話を通じて評価・訓練を行える臨床技術を養う。

4 年次

これまで学んだ知識や技術を、総合臨床実習を通じて応用し、卒業研究の作成と国家試験に向けて学びの集大成を行う。

こども保健学科:

1 年次

大学ならではの学びを効果的・有効に習得するためのスキルを身につけ、保育や教育、福祉、医療や保健分野の基礎知識を習得し、人権についての意識の土台を築く。

2 年次

1 年次で習得した基礎知識を保育実習の経験によって、こども理解、現場の実態、現状の把握を深め活用する。それらの経験を通して自己の個性や特徴を理解する。さらに養護教諭免許取得をめざす者は、その領域において基礎的な知識・技能の習得をめざす。

3 年次

幼稚園実習を行い、こどもと関わるうえでの応用力を身につけると同時に、2 年次で探究した自己の個性や特徴を生かした幼稚園教諭、保育士、保育教諭としての方向性を定める。さらに養護教諭免許取得をめざす者は、その領域において、より専門的な知識・技術の習得をめざす。

4 年次

3 年次に定めた幼児教育・保育の専門職、または養護教諭の実現を目指し、教職実践演習や卒業研究等、これまで学んだ知識の集大成と技能の総仕上げをはかる。

臨床工学科:

1 年次

一般教養、医学系基礎、工学系基礎の一部を中心に学び、また、医療現場を実感するため、透析クリニック見学や解剖見学を用意している。

2 年次

工学系基礎、医学関連科目、情報系科目、専門科目の一部を中心に学び、さらに臨床現場の、特に臨床工学部門を見学して、学びのモチベーションを高める。

3 年次

主に専門科目の実習を通して専門技術の習得を図り、また、スタッフとの連携をトレーニングし、4年次の臨床実習に向けて技能を向上させる。

4年次

これまで学んだ知識と技術を臨床現場で発揮し、卒業研究、国家試験、就職活動と、将来に向けて総仕上げを行なう。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:本学公式ホームページ、入試ガイド)

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(2)アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)>医療保健学部

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/admission.html>

(概要)

●大学の方針

「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念にもとづき、姫路獨協大学では、それぞれの学生が、この多様化し流動化する社会を生きていく上で必修の教養と専門的知識や技能を身に付け、さらには自己表現能力と自己責任能力を培い、将来、特に姫路を中心とする播磨地域から広く国際社会へと貢献できる人材となることをその教育目標としています。したがって、次のような学生の入学を求めています。

- 1.現状に満足することなく、常に向上心・探求心を持ち続ける人
- 2.将来の目標を見極め、意欲的に生きる人
- 3.勉学を怠らず、熱心にスポーツや文化などの課外活動を継続する人
- 4.地元播磨地域から未来に貢献しようとする人
- 5.国際交流に役立とうとする人

●医療保健学部

○理学療法学科

- 1.思いやりと寛容の心を持ち、他者との信頼関係を構築できることを強く希望する人
- 2.理学療法士としてチーム医療に参加するための協調性および主体的に解決していこうとする積極性を有する人
- 3.常に最新の知識・技術の修得に努力し、将来の理学療法業務に活かしていこうと考えている人

○作業療法学科

- 1.相手の気持ちをくみ取り、協調性を持って行動でき、尚かつ積極的で建設的な自分の意見や考えを主張できる人
- 2.専門職として必要な技術知識を修得する意欲がある人
- 3.ボランティア活動に意欲を持っている人

○言語聴覚療法学科

- 1.協調性があり、他人に対する思いやりがある人
- 2.幅広い知的好奇心を持つ人
- 3.専門職としての知識と技術の修得を志し、その修得に努力ができる人

○こども保健学科

- 1.こどもの発達支援に対して強い関心を持ち、そのための知識や技能を幅広い領域から修得しようとする意欲と資質を備えている人
- 2.コミュニケーション能力の修得に積極的であると同時に、弱者の人権にも充分、配慮することができる人

○臨床工学科

- 1.患者様中心の医療を担える思いやりのある人
- 2.医療者を目指す自覚とチーム医療で必須となる協調性のある人
- 3.何事にも好奇心ならびに探究心旺盛で積極的に医学・工学の発展に寄与する意志がある人

<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法:本学公式ホームページ) TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(1)各学部の目的>薬学部 https://www.himeji-du.ac.jp/univ/gakubu-mokuteki.html</p>
<p>(概要) 薬の専門家としての実践的能力、高い倫理観と豊かな人間性を備え、人々の健康の保持・増進と福祉の向上に貢献し、薬物治療の進展に資する研究心をもった薬剤師を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法:本学公式ホームページ 履修の手引き) TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(4)ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)>薬学部>ディプロマ・ポリシー https://www.himeji-du.ac.jp/univ/curriculum.html</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.薬剤師としての使命 薬剤師に求められる社会的責任を自覚すると共に、医療人としての倫理観を持ち、薬剤師の義務および法令を遵守し、人々の生命・健康・安全を守る使命感を持って行動できる。 2.コミュニケーション能力 円滑な人間関係を構築し、的確な情報の伝達および収集ができるコミュニケーション能力を有する。 3.チーム医療 医療に携わる多職種の役割を理解・尊重し、薬剤師の専門性を生かし、患者にとっての最善の結果を実現するように考えて行動する能力を有する。 4.基礎的な科学力 医薬品・化学物質等の特性を理解し、生態および環境に対する影響を理解するために必要となる基礎的な知識と科学的思考を有する。 5.薬物療法における実践能力 患者の病態に基づいた薬物療法を、科学的根拠を考慮したうえで総合的に評価し、適切な調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。 6.地域の保健・医療への貢献 地域の保健医療の担い手の一員として、プライマリケア、セルフメディケーション等を通じ、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。 7.研究への取り組み 薬剤師として個々の業務を遂行する中で、多角的な視点から様々な問題や課題を解析し、その解決のための研究を遂行する意欲と解決能力を有する。 8.自己研鑽と教育能力 薬剤師として社会から求められる要求に応えるために、医療と医薬品の進歩に関する情報や社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けると共に、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法:本学公式ホームページ 履修の手引き) TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(3)カリキュラム・ポリシー(教育課程の内容・方法の方針)>薬学部>カリキュラム・ポリシー https://www.himeji-du.ac.jp/univ/curriculum.html</p>

(概要)

本学のディプロマ・ポリシーを達成するため、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学独自の科目を段階的に配置し、実施する。

- ・医療人としての高い倫理観、使命感を育成するための科目を低年次より配置し、薬剤師への志向と学習意欲の向上を図りつつ、高年次では薬剤師に求められる社会的責任を自覚するとともに、備えるべき心構えを育成する科目を配置する。
- ・科学的思考力および問題の主体的解決能力を養い、コミュニケーション能力を熟成するための科目を実施する。
- ・臨床実習に関連する科目や臨床実習により、薬剤師職務に必要な基礎知識、技能、態度を修得するとともに、臨床における問題解決能力を養い、チーム医療を実践する能力、態度を育成する。
- ・深い教養を身につけるための全学共通科目(一般教養科目)や、薬学専門課程に移行するための基礎能力を高めるための専門基礎科目、および国際性を育む外国語教育科目を編成し、低年次より実施する。
- ・薬学の専門的知識や技術を修得するために専門科目、実習科目を編成し、基礎から段階的に実施するとともに、適切な薬物療法を実践する能力を育成するための科目を配置する。
- ・地域の保健・医療への貢献できる能力を養成するために必要な専門科目、実践的実習科目を編成し、実施する。それらに加え、近隣の薬剤師会と連携した地域医療に関わる科目を実施する。
- ・卒業研究、統合演習科目(PBL)および薬学アドバンス教育により、多角的な視点から問題を発見・解決できる能力およびプレゼンテーション能力を養成する。
- ・臨床実習、卒業研究により、医療と医薬品の進歩に関する情報を収集し、生涯にわたり自己研鑽を続けるための能力、次世代を育成する意欲と態度を養う。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:本学公式ホームページ、入試ガイド)

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(2)アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)>薬学部

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/admission.html>

(概要)

●大学の方針

「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念にもとづき、姫路獨協大学では、それぞれの学生が、この多様化し流動化する社会を生きていく上で必修の教養と専門的知識や技能を身に付け、さらには自己表現能力と自己責任能力を培い、将来、特に姫路を中心とする播磨地域から広く国際社会へと貢献できる人材となることをその教育目標としています。したがって、次のような学生の入学を求めています。

- 1.現状に満足することなく、常に向上心・探求心を持ち続ける人
- 2.将来の目標を見極め、意欲的に生きる人
- 3.勉学を怠らず、熱心にスポーツや文化などの課外活動を継続する人
- 4.地元播磨地域から未来に貢献しようとする人
- 5.国際交流に役立とうとする人

●薬学部の方針

「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念を基に、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーのもと、医療を担う者としての高い倫理観、薬剤師として必要な高度な知識と技能を学ぶ強い意志と協働性をもった、次のような人を求める。

○医療薬学科

- 1.薬学を学ぶために必要な基礎学力を有している人

- 2.何事にも積極的に取り組む学習意欲が旺盛な人
- 3.薬学における最新の知識・技術を習得し、薬剤師として社会貢献することを目指す人
- 4.良き医療人になるために必要な思いやりと協調性、およびコミュニケーション力を身につける努力のできる人

学部等名 看護学部

教育研究上の目的

(公表方法：本学公式ホームページ)

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(1)各学部の目的>看護学部

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/gakubu-mokuteki.html>

(概要)

生命の尊厳と個人の尊重であるヒューマンケアを基盤とし、看護に関する専門知識・技能を学修し、科学的思考力と主体的学習能力を涵養することによって、看護実践の質の向上に役立て、地域社会に貢献できる専門看護職者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：本学公式ホームページ 履修の手引き)

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(4)ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 看護学部>ディプロマ・ポリシー

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/curriculum.html>

(概要)

1. 職業人として、日本語及び外国語の運用能力並びに情報リテラシーの基礎を身に付け、これらを用いて論理的な分析と思考・判断及び表現する能力を有する。
2. 語学の学修を通して、他者とのコミュニケーションに必要な基礎的能力を有する。
3. 生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための倫理的態度を有している。
4. 多様な価値観、個性を尊重する態度を有している。
5. 人間と生活、心身の健康、社会の直面する諸課題についての基礎知識を修得し、人間・健康・社会の関係を体系的に理解する能力を有する。
6. 看護の目的と対象となる個人・家族・集団の特性を理解し、健康問題の特定と解決に必要な看護実践ができる基礎的能力を有する。
7. 保健・医療・福祉チームの一員として、多職種と連携・協働するために必要な基礎的能力を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：本学公式ホームページ 履修の手引き)

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(3)カリキュラム・ポリシー (教育課程の内容・方法の方針)看護学部>カリキュラム・ポリシー

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/curriculum.html>

(概要)

1. 多様化する社会のニーズに応えるための幅広い教養知識を修得する。
社会のさまざまな分野における知識を学ぶとともに、総合的・学際的な分野と専門分野が相互に補完しあうことによって幅広い教養と豊かな感受性を身に付ける。
2. 生命の尊厳や人権を守り、多様な価値観や意思を認め尊重できる。
生命の尊厳や人権尊重の理念について、理解を深めることにより、自らの価値観や人間観を育み、人々の人生や生活に対する価値観や意思が、多様で個別的であることを理解し、様々な価値を受容し尊重できる豊かな人間性を育成する。

3. 基礎的な看護実践力を育成する。

看護学と医学の基礎的知識を学修し、論理的な思考と科学的な根拠に基づいた看護実践を展開できる能力をもとに、総合的なヒューマンケアに基づく看護実践能力を育成する。

4. 保健医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働できる。

保健・医療・福祉チームの一員として、病院施設の機能やチーム医療における看護及び多職種の役割を理解し、多職種と連携・協働して、看護の役割を果たすことができる能力を育成する。

5. 科学的思考と問題解決能力、主体的学習能力で自己成長ができる。

看護の質の向上や多様なニーズに応えるためには、看護に関する課題の解決に向けた科学的思考と問題解決能力が必要になることから、継続的に看護学を探究しつづける基盤を維持し、看護の知識を学び、適切な看護実践を選択し行動するための科学的知識と問題解決能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学公式ホームページ、入試ガイド）

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>大学の教育研究上の目的と3つのポリシー>(2)アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）>看護学部

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/admission.html>

（概要）

●大学の方針

「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念にもとづき、姫路獨協大学では、それぞれの学生が、この多様化し流動化する社会を生きていく上で必修の教養と専門的知識や技能を身に付け、さらには自己表現能力と自己責任能力を培い、将来、特に姫路を中心とする播磨地域から広く国際社会へと貢献できる人材となることをその教育目標としています。したがって、次のような学生の入学を求めています。

1. 現状に満足することなく、常に向上心・探求心を持ち続ける人
2. 将来の目標を見極め、意欲的に生きる人
3. 勉学を怠らず、熱心にスポーツや文化などの課外活動を継続する人
4. 地元播磨地域から未来に貢献しようとする人
5. 国際交流に役立とうとする人

●看護学部

○看護学科

1. 生命の尊厳や多様な価値観を受け入れることができる人
2. 他者への思いやりと優しさをもって人とかかわることができる人
3. 看護学の理論と技術を深めるために主体的に、かつ積極的に学ぶ姿勢を持つ人
4. 将来、看護及び医療のチームの一員となることに自覚を持ち、社会性や協調性を兼ね備えている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学公式ホームページ

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部>教育研究上の基本組織>教育研究組織>「姫路獨協大学」組織図

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—	—	—	—	—	人
人間社会学群 国際言語文化学類	—	14人	1人	6人	0人	0人	21人
人間社会学群 現代法律学類	—	13人	5人	0人	0人	0人	18人
人間社会学群 産業経営学類	—	7人	6人	0人	0人	0人	13人
医療保健学部 理学療法学科	—	6人	4人	2人	1人	0人	13人
医療保健学部 作業療法学科	—	4人	2人	2人	1人	1人	10人
医療保健学部 言語聴覚療法学科	—	4人	2人	2人	0人	0人	8人
医療保健学部 こども保健学科	—	5人	4人	0人	0人	0人	9人
医療保健学部 臨床工学科	—	4人	3人	0人	2人	0人	9人
薬学部医療薬学科	—	14人	8人	3人	3人	7人	35人
看護学部看護学科	—	8人	3人	10人	3人	6人	30人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		207人					207人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学公式ホームページ https://www.himeji-du.ac.jp/faculty/professor/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間社会学群	280人	200人	71%	1120人	671人	59%	若干名	0人
医療保健学部	140人	108人	77%	710人	512人	72%	若干名	0人
薬学部	100人	30人	30%	600人	441人	73%	若干名	3人
看護学部	80人	69人	86%	320人	276人	86%	—	—
合計	600人	407人	67%	2750人	1900人	69%	若干名	3人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
外国語学部	41人 (100%)	2人 (4.9%)	29人 (70.7%)	10人 (24.4%)
法学部	46人 (100%)	1人 (2.2%)	36人 (78.2%)	9人 (19.6%)
経済情報学部	52人 (100%)	0人 (0.0%)	48人 (92.3%)	4人 (7.7%)
医療保健学部	99人 (100%)	0人 (0.0%)	87人 (87.9%)	12人 (12.1%)
薬学部	46人 (100%)	0人 (0.0%)	29人 (63.0%)	17人 (37.0%)
合計	284人 (100%)	3人 (1.1%)	229人 (80.6%)	52人 (18.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
神戸大学大学院、岡山大学大学院、兵庫県警察本部、大阪府警察本部、西兵庫信用金庫、兵庫県立姫路循環器病センター、京都大学医学部附属病院、大阪府立病院機構、兵庫医科大学病院 他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
外国語学部	48人 (100%)	32人 (66.7%)	8人 (16.7%)	8人 (16.7%)	0人 (0.0%)
法学部	56人 (100%)	42人 (75.0%)	4人 (7.1%)	9人 (16.1%)	1人 (1.8%)
経済情報学部	44人 (100%)	38人 (86.4%)	3人 (6.8%)	3人 (6.8%)	0人 (0.0%)
医療保健学部	154人 (100%)	77人 (50.0%)	32人 (20.8%)	26人 (16.9%)	19人 (12.3%)
薬学部	80人 (100%)	29人 (36.3%)	28人 (35.0%)	21人 (26.3%)	2人 (2.5%)
合計	382人 (100%)	218人 (57.1%)	75人 (19.6%)	67人 (17.5%)	22人 (5.8%)
(備考) 医療保健学部、薬学部では、各学年に進級要件を設けている。 その他の内訳は、授業料等未納除籍6名、転学部16名。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
各授業担当教員が授業科目の授業内容（到達目標を含む）、授業計画、教科書、参考文献、評価方法・基準、授業外における学習方法及び履修にあたっての注意事項等の詳細情報を記載方法のルールにしたがって入力しシラバスを作成している。その中で、実務経験のある教員による授業科目が学生に明確にわかるようにするため教務課で【実務経験のある教員による授業科目】の記載を基本情報に加えている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 授業時間内における発表や小テスト、学期末に実施する定期試験やレポート等、シラバスに記載した評価方法・基準により、各学生の学修成果を厳格かつ適正に100点満点で評価し、60点以上の評価を得た者に単位を授与している。卒業の認定に当たっては、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに則り、単位修得状況を卒業判定資料として作成、教授会において卒業判定を行い、卒業要件を満たしたと判定された者に卒業を認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間社会学群	国際言語文化学類	124単位	無	1学期 24単位
	現代法律学類	124単位	無	1学期 24単位
	産業経営学類	124単位	無	1学期 24単位
医療保健学部	理学療法学科	134単位	無	単位
	作業療法学科	133単位	無	単位
	言語聴覚療法学科	129単位	無	単位
	こども保健学科	128単位	無	単位
	臨床工学科	134単位	無	単位
薬学部	医療薬学科	204単位	無	単位
看護学部	看護学科	128単位	無	1学期 24単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学公式ホームページ

TOP > 大学案内 > 教育情報 > 学群・学部 > 学生の教育研究環境等 >

(3)教育施設・設備

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/pdf/c003-a.pdf>

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/pdf/c003-b.pdf>

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/pdf/c003-c.pdf>

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/pdf/c003-d.pdf>

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/pdf/c003-e.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人間社会学群	国際言語文化学類	800,000円	300,000円	203,300円	施設設備費:150,000円 学友会費等(入学時): 53,300円
	現代法律学類	800,000円	300,000円	203,300円	
	産業経営学類	800,000円	300,000円	203,300円	
医療保健学部	理学療法学科	1,100,000円	300,000円	493,300円	施設設備費:400,000円 実習費(2年次以後): 40,000円 学友会費等(入学時): 53,300円
	作業療法学科	1,100,000円	300,000円	493,300円	
	言語聴覚療法学科	1,100,000円	300,000円	493,300円	施設設備費:200,000円 学友会費等(入学時): 53,300円
	こども保健学科(平成28年度以前)	1,000,000円	300,000円	253,300円	
	こども保健学科(平成29年度以降)	800,000円	300,000円	253,300円	
	臨床工学科	1,100,000円	300,000円	473,300円	施設設備費:400,000円 実習費(2年次以後): 20,000円 学友会費等(入学時): 53,300円
薬学部	医療薬学科	1,400,000円	300,000円	474,700円	施設設備費:400,000円 学友会費等(入学時): 74,700円
看護学部	看護学科	1,100,000円	300,000円	553,300円	施設設備費:300,000円 実習費:200,000円 学友会費等(入学時): 53,300円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学習面において、本学では学習支援センターを設置し、学生の基礎学力向上や学習へのさまざまな不安や要望に向けて、教員が親身になって相談にのり、指導しています。学習支援センターの目的は基礎学力の強化であり、その目的のため、資格取得を目指します。 また、学習相談では学習面に関する事、履修や単位取得に関する事、資格取得に関する事等にも対応しています。 さらに、入学前教育を実施することで、年内合格者に対し入学後に備えての学習指導を行っています。 学生が授業等に対して配慮が必要な場合、授業配慮申請書を提出することにより、健康管理室と連携して、各教員に授業配慮について教務課より依頼する。それを受けて該当教員は配慮内容を精査し授業配慮をおこなう。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 1年次から計画的なキャリア・プログラムを実施。カリキュラムに組み込まれた複数の「キャリアデザイン科目」では、仕事について考える事から企業や業界の研究へ、そして問題解決力やコミュニケーション力を培った上で、インターンシップを体験し、無理のないステップアップを目指します。また「就職ガイダンス」、「業界研究セミナー」、「学内合同就職説明会」、「資格支援講座」などを実施し、就職サポートを積極的に行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生生活を全うする最も大きな条件は、心身共に健康であること。健康を保持増進するためには積極的な増進方法のほか、疾病の予防、早期発見に努めている。

- ・定期健康診断の実施、健康相談、応急処置等
- ・臨床心理士の資格を持つ専門カウンセラーによるカウンセリングを実施

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法: 本学公式ホームページ

TOP>大学案内>教育情報>学群・学部

<https://www.himeji-du.ac.jp/univ/gakubu-kj.html>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
年		単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
人	人	人	人	人	人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）
成績評価の基準・方法 （概要）
卒業・進級の認定基準 （概要）
学修支援等 （概要）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
